

令和6年度 学校教育目標「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

重点目標「自ら学び、共に高め合う子」「自分の思いや考えを言葉で表現できる子」



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和6年7月発行

「つながる笑顔」自然教室

校長 土屋 清隆

6月19～20日の2日間で自然教室を実施しました。桑村小学校の4・5年生との合同実施となりました。当日だけでなく、事前打ち合わせからリモートによる顔合わせや、ダンスの練習を通じて交流してきました。

三ツ石海岸では子供たちが、磯の生き物を見つけ捕まえた後、博物館の学芸員がそれぞれの生き物について解説してくれました。学校でも多くの生き物を捕まえている子供たちですが、場所を変えた海の生き物に目を輝かせながら、「ウニがいた!」、「すごい! ナマコを捕まえたぞ!」、「変な貝がいた!」と楽しそうな声を海に響かせていました。



飯ごう炊飯でのカレーライス作り、キャンプファイヤーと日程が進むにつれて、2校の子供たちの距離はさらに縮まり、笑顔が広がっていました。

丹那小では、このような自然体験や本物に

触れる学習機会がたくさんあります。その中で、自尊感情が高まり主体的に考えたり、協働したりする気持ちが育つことを願っています。

また、地域の皆様と協働しながら「多様な自然体験やオール丹那の共有体験を土台とした子供の成長を支える環境づくり」を進め、よりよい社会の担い手の育成をめざします。

「ごみゼロの町へ」

青少年健全育成大会（6月23日）において、「わたしの主張発表」が行われ、6年生の村田和月さんが、丹那小代表として発表しました。自分たちの住む地域を、ごみが落ちていないきれいな場所にするためにどうしたらよいのか、町民への提言だけでなく、和月さん自身が実践した活動を通して考えたことを発表しました。当日は、文化センターに集まった大勢の人の前で、緊張しながらも堂々と発表する姿が立派でした。



【静岡新聞(6/28)より】